

防災・減災について

菊地 忠久



〔質問〕令和元年の台風19号が発生した10月12日をメモリアルデーに定め、改めて防災教育を強化すべきと考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【教育長】令和元年の台風19号により、本市では複数の学校が被害に遭っており、特に被災した学校では、それぞれが特色ある取り組みを行なっている。

台風19号が発生した時期は、本市では秋休みに当たるため、メモリアルデーは決めていないが、台風19号を契機として防災教育の強化を図っている。

本年11月には宮城教育大学の防災教育機構

と連携し教職員の研修会を行い、令和4年1月には中学生対象の防災研修会を実施する予定である。

中学生が防災指導員の資格取得を目指すことなどにより、防災についての実践力の向上を図ってきたい。

〔質問〕ARやVRを使った疑似体験を通じて、災害への意識を高める必要があると考えるが、所見を伺う。

〔答弁〕【市長】全国でも防災教育や避難訓練で、ARやVRを取り入れた訓練を行なっている小中学校がある。

AR機能がついたゴーグルを装着し、廊下に充満した火事の煙が再現されたり、校庭では首元まで水没するといった疑似体験ができるものである。

参加した児童は「煙で何も見えなくて怖かった」また、水没体験では「瓦礫が流れ、とても人を助ける余裕はなかった」と話していたそうである。

リアリティーのある疑似体験をすることで、より防災への意識が高まる効果が得られるものと考えている。

毎年6月に地域一体となった総合防災訓練を実施しているが、各小中学校から協力を得て、児童生徒も訓練に参加することにより、防災教育、防災に対する意識向上という意味では一定の成果があったと考えている。

防災訓練の充実と発展を図るとともに、ARやVRを取り入れることについても、白石市小中学校防災主任者会議の場などにおいて検討していきたいと考えている。

その他の質問

◎学力向上について

本市の財政運営について

高子 秀明



〔質問〕土木費および災害復旧費の予算執行率が低いが、このことに関する見解を伺う。

〔答弁〕【市長】土木費については、令和2年度第3次補正予算により措置された国庫補助事業や入札の不調、新型コロナウイルスの影響による業務工程の遅れのため、予算執行率が低くなっている。

災害復旧費については、令和元年度台風19号に係る復旧事業の規模の大きさから、工事の詳細設計に時間を要しているものや、入札の不調で年度内執行が困難となったことにより、翌年度に繰り越しをした

ため、予算執行率が低くなっている。

〔質問〕市長自らが「本市財政が厳しい状況である」と発言することについて、市民感情への影響をどのように受け止めているか伺う。

〔答弁〕【市長】財政状況が厳しい状況であることは、市民にとっても好ましくない情報であるが、本市が「持続可能なまち」選ばれるまち「白石市」としてあり続け、発展していくためには、市民の皆さまのご理解、ご協力なくして進んでいくことはできない。

そのためには、本市の実情を知っていただくことが必要であると考えている。

〔質問〕令和2年度一般会計歳入歳出差引額の状態を見ると、結果的には公立刈田総合病院

への繰出金を増額できたと見てとれるが、今年度末に關しても昨年度と同様の状況になると予想される。

このことについて、どのような認識であるか伺う。

〔答弁〕【市長】本市としても、現在の病院経営について非常に厳しい状態であるということは十分承知しているところである。

経営改善のための努力を継続しているが、新型コロナウイルス感染症への対応、行政のデジタル化、スマートインターチェンジ周辺施設の整備、老朽化してきている公共施設の整備など、本市が取り組まなければならぬ課題も山積している。

これらの課題についても多額の費用が見込まれることから、刈田病院の支援だけに財源を投入することは、非常に難しいと考えている。